

私たちのすむまち「北区」

- ◆開催日時: 2019年3月4日(月) 12:00~15:00 天候: 雨
- ◆会場: 北とぴあ15階 ペガサスホール
- ◆参加者数: 96名(スタッフ含む)
- ◆主催: 北区まちづくり(コープみらい・パルシステム東京・東都生協・生活クラブ生協・東京ほくと医療生協・東京ふれあい医療生協・東京都生協連)
- ◆協力: 北区・社会福祉法人北区社会福祉協議会・特定非営利活動法人東京都北区市民活動推進機構(北区NPO・ボランティアぶらざ指定管理者)・王子消防団第一分団・コープ災害ボランティアネットワーク

講演

北区における災害リスクと 事前に考えておくべきこと



北区 危機管理室防災課 防災主査
近藤謙太さん

「もし身近で地震や水害などの災害が起こったときに自分はどのようなだろう？自分が死んでしまうなどの悪い想像をすることはとても難しく、人は誰でも「自分は大丈夫」と思いがちです。だからこそ一度も経験したことのない災害を想像し、それについての対策を考えることがとても重要であり、そのことを『防災』

というのです」と冒頭に近藤さんはお話されました。

この日の会場となった北区は、JR京浜東北線を挟んで荒川に近く水害への備えが必要となる地域と、やや高台に住宅が密集し地震での大規模火災などが心配な2つのタイプに大きく分けられます。今回の



会場の様子

企画の目的は、このような北区の中で自分の住む地域ではどのような災害に備えておくことが必要なのかを区民に知ってもらい、自分事として防災の意識を持ってもらうことでした。当日は居住地域ごとのグループに分かれ、前半近藤さんのお話を聞いた後、ハザードマップを見ながら自分たちの住む地域の災害に強いところと弱いところを見つけ出すことから始め、そこで出された弱みを解消するためにどのよ

うな備えが必要かを話し合いました。参加者からは、「日頃から町会の避難訓練に参加することで地域とのつながりをもつようにしたい」、「引っ越してきていまだに知人がいない、今日同じ地域の人たちと話ができて少しほっとした」、「住民が中心になって考えていかなくてはならないが、それと同時に行政のリーダーシップを期待したい」といった感想がありました。



ワークショップの様子

展示・体験



簡易トイレって？



地域の消防団とAED体験



ソーラーランタン



防災トランプ体験



地域の団体も参加

6つの生協がそれぞれブースを設け、日々の活動で学んだ身近にできる防災アイデアを披露しました。なかでも人気があったのは「アイデア防災食の試食」。火を使わずに作れるカレーやインスタント麺、そして簡単サラダの美味しさに驚く声！その他参加者が興味を示したのは「災害時のトイレ事情」。簡易トイレの実物を初めて見たという人も少なくありませんでした。この展示・体験コーナーは、地域の消防団や社会福祉協議会、ボランティアぶらざ、コープ災害ボランティアネットワークなど多くの団体の協力のおかげで、北区の人たちに日常の備えの大切さを伝えることができました。

参加者のこえ

- 区の話が聞け、また声を届けることができてよかった。
- 普段から気になっていること等が聞けて良かった。新たに身近に感じ考えさせられた。
- 住んでいても知らないことが多く、詳しく教えてもらえてよかった。
- 同じ北区でも課題が違うことがわかった。やはりそこに住む住民が中心になって考えなければいけないと感じた。住民との協力、連携が必要。
- 地域の人たちと具体的な考えを出し合うことは、考えが広がって大変有益だった。